

日本食品標準成分表2015年版(七訂) 分析マニュアル 正誤表

頁・行	誤	正
「第1章 一般成分及び関連成分」関係		
p. 18 測定方法 (4)	$\frac{W_1 - W_0}{W \times 100}$	$\frac{W_1 - W_0}{W} \times 100$
p. 20 注解(注1) 1行目	桐山漏斗(口径90 mm)に	桐山漏斗(適合濾紙径60 mm)に
" 2行目	「ビーカーに約50gのケイソウ土をとり、…」	「ビーカーに約 5 gのケイソウ土をとり、…」
p. 21 (3) 操作 9行目	「ガスを抜き、マジョニア管用遠心分離器にかけ、エーテル…」	「ガスを抜き、マジョニア管用遠心分離器に かけるか、静置して 、エーテル…」
「第2章 無機質」関係		
p. 57 測定方法 (2) 1行目	①モリブデン酸アンモニウム四水和物 [$(\text{NH}_4)_2 \cdot \text{MoO}_4 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$]	①モリブデン酸アンモニウム四水和物 ($(\text{NH}_4)_6\text{Mo}_7\text{O}_{24} \cdot 4\text{H}_2\text{O}$)
" 2行目	②メタバナジン酸アンモニウム (NH_4VO_3)	②メタバナジン酸アンモニウム (NH_4VO_3) (特級)
p. 58 測定方法 (2) 3行目	モリブデン酸アンモニウム	モリブデン酸アンモニウム四水和物 ($(\text{NH}_4)_6\text{Mo}_7\text{O}_{24} \cdot 4\text{H}_2\text{O}$)
p. 61 測定方法 (2) 1行目	1, 10-フェナントロリン塩酸塩一水和物 ($\text{C}_{10}\text{H}_8\text{N}_2 \cdot \text{HCl} \cdot \text{H}_2\text{O}$)	1, 10-フェナントロリン塩酸塩一水和物 ($\text{C}_{12}\text{H}_8\text{N}_2 \cdot \text{HCl} \cdot \text{H}_2\text{O}$) (特級)
p. 61 測定方法 (5)	鉄含量(mg/100 g) = $A \times V \times 25 / v \times f \times 100 / W$ ×1000	鉄含量(mg/100 g) = $A \times V \times 25 / v \times f \times 100 / W$ ×1/1000
p. 82 測定方法 (3) 4行目	近似させる必要がある (注1)。	近似させる必要がある。
" (4) 4行目	ガリウムを内標準元素とする。	ガリウムを内標準元素とする (注1)。
p. 82 注解(注1) 1行目	「…内容物の色や香りなどの品質が変化を防ぐため…」	「…内容物の色や香りなどの品質 変化 を防ぐため…」
「第3章 ビタミン」関係		
p. 84, 88, 101, 108, 116	和光純薬工業株式会社	富士フィルム和光純薬株式会社
p. 129 測定方法 (2) 15行目	Dowex 1 X 8(Cl^-) 100 g	Dowex 1 X 8(Cl^-) 50 g
p. 141 測定方法 (3) 25行目	(60 : 40 : 5 : 0.5 v/v/v/v)	(60 : 40 : 5 : 0.05 v/v/v/v)
「第4章 アミノ酸」関係		
p. 149 3行目	「ただし、p-11は6mol/L塩酸でpHを2.83に調整後使用する。」	(削除)
p. 151 下から2行目	「ただし、p-11は6mol/L塩酸でpHを2.83に調整後使用する。」	(削除)
p. 153 測定方法 (3) 5行目	「冷却後、開管し、加水分解液を50 mL、 容量 100 mL又は…」	「冷却後、開管し、加水分解液を 容量 50 mL、100 mL又は…」
p. 154 上から4行目	移動相：20 mol/L過塩素酸－メタノール	移動相：20 mmol/L過塩素酸－メタノール
p. 155 トリプトファン定量法 フローチャート 上から2段目	「水酸化 バナジウム 八水和物」	「水酸化 バリウム 八水和物」
p. 143, 145, 149, 150, 151	和光純薬工業株式会社	富士フィルム和光純薬株式会社